

農業や地域と触れ合う体験学習の実施

事業実施主体：足利市（栃木県）

- 足利市は、都市化の進行や外食、中食など食の外部化により、消費者等が食料の生産や加工の現場など身近に触れる機会が減少しており、農産物が自然の恵みであることや毎日の食生活が多くの人々の活動に支えられていることが実感しにくくなっている。
- 作付けから収穫までを体験することで、足利市の子どもたちや市民が足利市の地域特性に応じた農業や自然に対する理解を深め、食や地産地消の関心を高める機会の提供を図った。



栃木県足利市

【取組の内容】

- 農業体験学習および講話の実施
 - ・足利市内の農業者の指導の下、水稻（田植え、稲刈り）または野菜（定植、収穫）の農業体験を実施。
 - また、農業体験の開始前に農業者による講話も実施した。
- 実施日：水稻栽培 令和4年6月～11月（作付から収穫まで）
 野菜栽培 令和4年4月～12月まで（作付から収穫まで）
 場所：足利市内各ほ場（学校内花壇も含む）
 対象者：市内小学生（11校、1,332人）



田植えの様子（6月）



稲刈りの様子（10月）

【取組の成果】

- 今回の体験や地元農業者との交流を通し、農業や食への関心を高めることができた。
- 実施後のアンケートでは、農業体験をまたやりたいと答えた割合が91%となった。また、今回の農業体験によって地産地消を意識するようになった割合が71%となり、平成30年に市民を対象に行った地産地消の意識調査の割合を大きく上回る結果となった。

【事業の目標】

- 農林漁業体験者の延べ人数を増やす
 事業実施前 16,889人
 →事業実施後 18,221人
- 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ市民を増やす
 事業実施前 50.9%
 →事業実施後 71%

